

豊穣で物憂げ、秋が似合う男

# ヨハネス・ブラームス

Johannes Brahms (1833-1897)

C  
2025  
OCTOBER  
[第2047回]

バッハ、ベートーヴェンと並び、ドイツ音楽の「三大B」と称されるブラームス。職人かたぎで慎重な彼が、プレッシャーのなかで《交響曲第1番》を生み出すまでに20年以上もの時間をかけたというのは、あまりにも有名な話。しかし本日の《交響曲第3番》が作られた頃には、すでに名声を得て、余裕の作曲姿勢だ。雄大にはじまり穏やかに終わる構成や、長調と短調との間をゆるる旋律は、晩秋のようなしみじみとした味わいを持つ。

## ピアニスト・ブラームス

作曲家のイメージが強いブラームスだが、ピアニストとしての腕前も相当なものだった。24歳で勤務したデトモルト宮廷は、彼のピアニストとしての能力が高く評価されて話が決まったという。華やかな超絶技巧とは異なり、演奏しながら大声で歌うような、自分自身を深く作品と演奏に没入させるスタイルだったと伝わっている。

イチヨウの葉がはらり。  
大自然の恵みと哀愁を感じるブラームス  
イラストレーション ©IKE